

2022年4月13日 Vol.195

選別色強まる展開の新市場始動後のIPO相場

桜が開花したかと思うと既に散り、4月もはや半ばに差し掛かろうとしています。各地の公園では色鮮やかなチューリップが咲き誇り、大空を舞う鯉のぼりが目に入る今日この頃となって参りました。国内外の社会・経済情勢が混沌とする中で株式相場は3月後半にかけての戻り相場が一巡し、再び春の嵐のごとき下値模索の展開が続きましたが、冷静に眺めれば再びの投資チャンスとポジティブに考えることもできます。IPO市場に目を転じますと年初から18の銘柄が既に新規上場を果たしていますが、5銘柄の初値が公開価格を割るなど厳しい状況が見られ投資家の銘柄選別色が一層強まっている状況となっています。

4月4日からの新市場始動後は既に3銘柄（グロース2社、スタンダード1社）が新規上場を果たしております。最初のIPOはAI関連のセカンドサイトアナリティカ（5028・グロース）で公開価格1390円の約2.3倍となる3190円で初値がつき、その後4750円という高値をつけました。7日のエフビー介護サービス（9220・スタンダード）の初値は公開価格1400円を12%上回る1561円のスタートとなり、その後1961円の高値まで買われました。また12日にIPOしたクラウドシステム関連のサークレイス（5029・グロース）は初日に値が付かず、2日目になって公開価格720円の3.2倍となる2320円で初値がつきその後2420円の高値まで買われる場面もありました。いずれも初値はプラススタートではありますが、AIなどシステム系の銘柄の評価が高く投資家の銘柄選別色が強くなっている状況です。しかもIPO後は一旦の高値があってもその後波乱の値動きが続いており、引き続き需給の悪さを感じさせます。中には上場直後の大幅な値下がりにより新市場の上場基準となる流通時価総額10億円に満たなくなったIPO銘柄もあり、実際の企業内容とは無関係な需給関係による短期売買で形成されている市場の動きが読み取れます。IPO銘柄の多くは割高感があるので短期投資家の投げは致し方ないかも知れませんが、長期的な成長が予見される銘柄については改めて見直される可能性があります。先般2月4日に東証スタンダード市場に上場した美容サロンをサポートするビジネス展開するセイファート（9213）は上場初値が公開価格を8%下回り、その後は一旦1650円の高値まで上昇しましたが直近になって時価総額が9億円以下となる水準まで下落しました。流通時価総額どころか全体の時価総額が10億円を割り込み、今後の認知度向上施策が求められています。

4月21日からは廃材リサイクルのフルハシEPO（9221・スタンダード）など7銘柄がIPOして参ります。とりわけ25日から28日の大型連休前にライブ配信コミュニケーションプラットフォームを展開するモイ（5031）、トランクルーム事業のストレージ王（2997）など4銘柄がグロース市場に登場予定。選別色は強いと思われますが例年通り5月のIPOはないと想定され需給は良好かと思われます。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）